


 ときの話

# 広域農協合併と地域社会

室蘭工大教授・北大名誉教授

山田 定市

## 農協合併の背景

いま、北海道では広域農協合併の動きが急を上げている。

農協合併自体は一九六一年の農協合併促進法の制定にもなつて、「農業近代化」の一環として長く続けられてきた施策であり、この間、全国的には総合農協をとつてもその数がほぼ三分の一に減少するほどに急激に推進されてきた。

この動きに比べると、北海道の合併は、これまであまり急がれてはいなかつたといえるが、昨今その動きが急速に加速されてきたのはなぜか。

いうまでもなく、その背景としては、WTO体制のもとでの農業の危機的状況がとりわけ北海道に集中していること、それと並行し

て農協理事者の経営への危機感が一段とつものつてきていること、さらにその「危機乗り切り」を口実とする行政指導がいつそう強められていくこと、などをあげることができると、事態はさらに根深いところ起因している。

ガット体制からWTO体制への移行と並行して打ち出されてきた新農政の中で、中小家族農民経営を農政の対象から除外し、一部の大規模経営と法人経営を基本単位とする、という地域農業の再編が、市町村の枠を超えた広域農協合併を暗黙の前提としており、さらに都道府県連合会を整理・統合する系統二段階制と一体となつた構想として打ち出されてきた。

地域農業の広域再編にあたって、中小農家の切り捨て、広域農協合

併、系統二段階制は、いわば三ツセットをなすものとして実施されつつあるといえる。

## 「経営効率主義」に

望みはあるか

さて、この構想の基礎には、いうまでもなく徹底した「経営効率主義」が貫いており、それが昨今の市場万能主義に裏打ちされた規制緩和政策によつて加速されているといえる。

農協経営関係者の内部には、経営危機を乗り切るには、経営効率を上げる広域合併以外にないとする牢固とした「盲信」があるように見つけられるが、果たしてそうであろうか。

現在、国籍企業の世界市場争いがいつそう熾烈をきわめる反面、

◀やまだ さいいちさん



各国にあつては、市場競争の中で大規模経営の有利性を一義的に追い求めることにかわつて、地域産業の担い手として、中小零細企業や家族経営の役割を再評価し、地域活性化に向けて、その活力に期待する考え方も徐々にではあるが強まっている。西欧における中間地対策の重視などにその動きをみることが出来る。

また、例えばインターネットに示される情報化の進展が、中小零細企業や個人営業の新たな活動の機会を作りつつあることが、「大規模経営万能主義」への一義的な信奉を揺るがせていることも否めない。

このような状況のもとで、二十世紀の企業活動においては、大企業の独占的地位は容易に揺るぎないとしても、「大規模万能主義」に寄りすぎるだけでは乗り切れないことも確かである。

このように見るならば、広域合併にすべてを託する農協理事者の姿勢は、あまりにも先見性に欠けているといわざるをえない。「広域合併しかない」というが本当に

そういえるであろうか。

現在の経営危機を乗り切るためには、個々の単協の力だけでは不足であるとしても、その打開の道を直ちに合併に託することはあまりにも安易ではなからうか。単協の補完組織としての連合組織（連合会）の再評価・見直しをどこまで行つたといふのであろうか。また、個々の事業ごとに幾つかの単協が事業連合を組む可能性をどこまで検討したのであろうか。

つまり、単協の補強の道は、単協を含む系統組織全体のあり方についての十全な検討を経て定められるべきであつて、合併に安易に走るべきではないと思つた。

合併による大規模化が協同組合民主主義の基礎をみずから失う結果を招くことは、例えば農協の総会ないし総代会の本人の直接出席率が規模の拡大に反比例して低下するといふ事実によつても明らかにである。

### 地域社会における

#### 農協の役割

合併による影響は農協内ににとど

まらない。今回の合併が市町村行政区画を超えて広域にわたつていくということは、従来の市町村内の合併と内容的に異なることを意味し、地方自治のあり方に重大な影響を与えることになりかねない。

地域農業の構造において農協と市町村自治体とはいわば「車の両輪」の役割をともに担つてきたといえるが、広域合併によつてそれが「片輪」になり、行政と産業活動の協力関係を破壊することになりかねない。

現に市町村首長の大半が広域合併に反対していることは、この点に関する危機感の表明にほかならないといえる。

農協は、それ自体経済団体であるが、同時に地域産業や地域の住民生活に影響力を持ち、げんに住民からも大きな期待が寄せられているのであつて、いわば地域に開かれた公共的な役割を担つた存在なのである。したがつて、一方的に農協の内的な論理と都合で広域合併を行うことは、このような住民の期待を裏切ることにもなりかねない。

### 地域ネットワークの要

現在ならびに将来はネットワークの社会であるといわれている。その中でも地域協同ネットワークは、地域づくりの実践にとつていっそう重要な存在とならう。

その中にあつて、農協は地域内の他の諸団体とともに、その中核的な役割を期待されているといえる。そして、そのような地域の期待に応えることが実は農協自体の発展に結びつくもつとも着実な道であるといえよう。

きたるべき二十一世紀に向けて農協に期待されている役割は、単に経済競争の中で経営至上主義に徹することではなく、地域社会に広く深く根をおろして、地域づくりを担う組織的主体としての役割を発揮することにあるといえよう。

合併を含む農協運営のあり方を決めるのはいうまでもなく組合員自身である。そのさいに「合併以外に道はない」という「袋小路」から脱して、広い視野と大局的な見地からの十全な検討が望まれる。